

オーストラリヤ (AUS) と ニュージーランド (NZ) の畜産状況 (3)

前 川 裕 美

同市は名の示す如く教会が都心部にあり、市民の構成は戦士として有名なマオリ人、その外移民で構成されている。日本人も一人戦争花嫁として(三児の母親)牧場に住んでいるようです。日本人はNZでは少ないので珍しがられる。マリオ人は小麦色の肌、眼は茶、髪は黒、体高も日本人並みが多い。日本人に親近感をもつ民族です。

オーバートン氏牧場は同市から約二〇キロにあり、牧草刈り取り中でしたが案内してくれました。丁度母子群の乳牛から三〇頭程度の仔牛をホーダーコリー犬が分離していたが、僅か十分位で作業を終えます。育成期間中は、母乳を時間制限で直接哺乳させている。

同氏の経営は七〇翁で
乳牛 ホルスタイン

一五〇頭

(搾乳牛)

(供用種雌牛)

三

(シ 育成牛)

四

(育成雌牛)

九三 繁殖、

個体販売を主人、息子、牧夫の三名です。

施設は無畜舎ですから雨中でも放牧です。施設としてあるのは、乾燥舎。大農機具舎。診療施設。搾乳施設。大農機具は、新型ではないが凡その機械体系はあり、大型トラクター、モアー、レーキ、ペラー、トレラー、トラック等です。

私の訪問した日は雨で、吹きさらしのため牛は萎縮していました。体温低下等を来たし呼吸器病、消化器病の誘発を来たと思われまふ。この雨、風の防護方法は、防

風林のみです。幼牛、若令牛、成牛の放牧地に樹種は松で高さ3呎、横に充分枝を張らして、防風の効果を高めています。庇蔭林としての外に防風林の効用で放牧牛の保護を図っています。

最も当牧場の特色は搾乳施設にあります。牛の習性を応用したとみられます。まず飲水施設は放牧地にはない。飲水のために搾乳牛群は搾乳のパイプライン前に集合して行く。途中乾草を採り、脚踏槽を通過して、コンクリートフロアに集まり、パイプ製の五頭横列に仮保定されて、ミルクの装着、搾乳を終り、解放されて水槽で飲水を終えて放牧地へ移動する。この際乳頭に軟膏を塗布する。牛乳はパイプで処理室へ送られ冷却後およそ一〇石入りのステンレスタンクに貯乳される。円筒型で底部に二枚羽の攪拌で循環される。翌朝タンカーに直接に吸い取られる。



写真 ⑮ 育成牛

(二二頁より)
改良のために最初に牧草を導入し、それによって土壌を改良して行くと言うのも一つの方法であるように考えられる。これらは今後に残された大きな問題点の一つであろう。

〇おわりに

二年間、考えてみれば長い様で短い、熱帯に住みついて彼等と共に生きてみた。

開発途上の国々、後進国、色々の言葉で表現されている彼国々、そこには貧しさもあれば、幸せもある。遅れている様々な面と進んだ先進国の物質文明の恩恵を一杯にうけている国々、なんとチグハグな国だらう。筆者は良くそう思うことだった。

しかし彼等の心のどこかには、必ず「立ちあがるんだ」という気持がある。

したがってわれわれ先進国の人々は、これらの、これから立ちあがらんとする国への、なんらかの援助協力は必要な事であり、大いに意義がある。

ラオスの様な問題はポスト・ベトナムだと言われている如く全く不安になる一面も確かに、あるけれども、皆、求めているのは「平和」であり、幸せであることは否めない事実である。畜産一つを例にとってもすべてが、これからである。東南アジアが前進することは、日本への前進でもあり、アジア、アフリカの前進、そして、それは広く世界平和へとつながるのである。

完

昭和四十四年六月十七日夜十二時

藤原生

このようにこの牧場の特徴は、一、飲料水を利用して多頭数の搾乳を省力化している。二、無畜舎でその欠点を防風林造成で補っている。三、哺育は凡そ四ヶ月令まで母牛と同時放牧で自由哺乳している。四、ボーダーコーリーで高い労賃の節約をしている。五、家畜の改良と繁殖は牧牛にて合理化している。

写真 ⑮ 育成牛

生後四〜六ヶ月令の育成牛ですが降雨で萎縮しております。日本の五月頃の雨ですので、風があつて肌寒い日でした。ここは防風林があるので体表面の温度は消散が防止されている。資質は発育が良く四肢の伸びがよく背線も強い。しかし乳器は日本の改良されたのを見慣れた眼からは、少し改良が遅れております。NZの乳牛は一八〇万頭といわれホルスタイン種が主要で、純



写真 ⑮ 放牧地

血種と系種とに分けています。

写真 ⑯ 放牧地

二〇度以上の傾斜地では、道路は斜に円周を画きながら頭上に達する。これは家畜の採草が斜に行なわれる習性から、種子の播種は斜に行なわれています。草種はホワイトクロパーとオーチャードが主です。雑草は日本と異なり多くありません。主に眼につく雑草は穂の大きいドックテイルと言われるもので、外観は禾本科の型で茎は扁平の軟かい五〇〜六〇センチに達しますが羊も食さないとのこと。日本によく見る大黄等は全くありません。写真の山は六〇〇呎の高さですが、一、〇〇〇呎の山も放牧地として利用されている。深い渓谷等も牧柵を十分に使用して危険防止を図っております。

NZは酪農より肉牛、羊の方が収入が多いとのことですが、後者では教育が僻地のため悩みだそう。この国の開拓制度は草地放牧地、住宅、電気、飲雑用水等設置の建売り方式で、このため入植者は資本効率も早く、企業としてその日から経済ベースで経営出来るとのことです。

気候はクライストチャーチ市で冬期間、八、九十の三ヶ月は降雪をみる。しかし量は少なく五〜一〇センチ程度、二〜三月で融雪するとの事で北海道と比較して気候は、温暖でサイロもなく乾草のみです。三〇キロメートル収納です。

写真 ⑰ リトルトン港の船積み風景

NZの南島で最も重要な輸出港で日本の

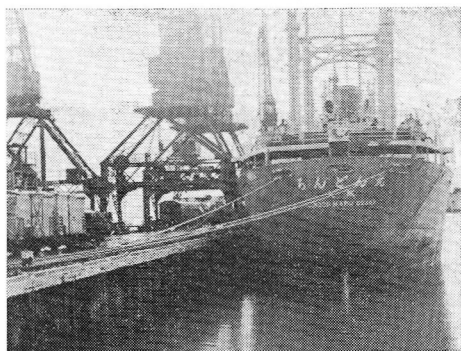


写真 ⑰ リトルトン港の船積み風景

船が多い。

日本とも出緒のある良港で明治三十四年

白瀬南極探検隊が寄港し物資補給の後ロシアに到着したと通訳氏が説明してくれた。

雨のため荷役作業は静かでしたが、日章旗も垂れてましたが、国旗をみると懐しさを感じます。輸出品の主なもの、マトン、ラム、タロ、羊毛、牛肉、木材等です。

同国は年間七〇億の輸出計画をもち、英国の最恵国待遇から自主的に市場開拓の努力を要する同国は、南米、南阿、東南阿、さらに米、日本を好市場として積極的に開発をしている。

NZの南島から北島南端の首都ウェリントンを経由して約三時間、南島最大の都市オークランド市へ来ましたが、同機からNZの農務長官が単身降りられ、迎えに二人程いたとのこと、大臣級の人に接したのに、極めて平静でした。日本人は三〇人ぐ

らいいとのことですが、めったに会いません。青年達が日本人に興味を示します。

ホテルも静かでチップも二〇セント、日本円の八〇円ですみます。NZは第二次大戦では、日本と交戦国ですが被害が少ない故かAUSよりも国民感情は良いです。キャンベラの戦争記念館では日本の特殊潜航艇が陳列されて、悲惨さを見せてますが、オークランドの記念館では、ドイツのV2号、英のメッサリーシュエミット、日本の零戦が陳列されていて、その優秀さを唱っており、戦争の悲惨さはありません。しかし火器の貧弱さは覆うべくもありませんでした。

AUSは化学工業国への指向を鮮明にして構造政策の推進を行なっているのに対し、NZは穏かな農牧国で平和で豊かです。私共日本人からみると、微温湯に漬けている気持です。国民の生活は落着きと豊かさがある反面に敵しさが少ないと、そのような印象を強く感じます。

それは次のような推測ができます。

一 自然条件は北半球と異なり、冬期積雪等の不利な条件が極めて少ない。
二 国の方針が農牧政策のため、企業者間の収入格差が少ない。化学、重工業の発達した国は第一、第二次産業の所得差が大きい。

三 世界的に化学、工業の発達は投資の活性化でインフレの助長もある。NZは若干インフレ傾向にあるが、世界流通貨の中でNZ、AUSのドルは世界の中で最も安定した価値を誇っている。

四 社会福祉政策が行きとどき且つ経営は

安定し、牧場の従業員等は労働組合に加え、高賃金を得ている。

AUSの内陸部でレストランへ入る時、背広、カメラを持ちドアをロックしようとする、その必要はないと言う。この国では殆ど盗難はないという。香港では運転手はバッテリーのボルトを締め直したのと好対象である。NZでは新聞一面トップに、少女二人に一少年が銃を構えて、食糧品を強奪した海水浴場での事件をビックニュースに取り上げていたけれども、これからも両国とも極めて平和郷であることが窺える。

両国に渡ったこの機会に、畜産業、その他を研修したのですが、その深奥については勿論不可能ではありますが、常々畜産に携る者としてオーストラリアに渡った機会に、シドニー市の素人下宿にお世話に成り、旅費と日程を節約して憧れのNZに渡ったわけです。シドニーの下宿は、一般市民と同様二〇〇坪の土地に、一〇〇坪の煉瓦建で、橙黄色の瓦屋根です。この国の習慣との事ですが、来客を遇するに、白ペンキで壁を塗り迎えてくれるのですが、高温でペンキ臭が強く、閉口しました。

シドニーは人口も多く活気があります。市の名所として、世界的に有名な天然良港のシドニー港があり、軍港として航空母艦や戦艦等も見られ、湾に囚人閉塞の小島があります。泳いで脱獄は殆どなかったとの事、何故かと聞きますと鯨の番人だそう、例年数人が鯨により死亡事故があるそう、ピクトリア州の首相も鯨の被害だそ

うです。下宿の主はギリシヤ人で、同国から移民してきたのは八九年だそうです。

丁度帰国が近づいた日に、親せきの青年が、ベトナム出兵とかで、親せき一同集まり青年を囲んでギターを鳴らし、別離を惜しんでいました。ギリシヤ語の歌らしく、意味はわかりませんが、陽気な歌あり、しみじみとした歌あり、拍手ありでした。特に別離バーターということもないようです。翌朝この兵士に会いましたが、二〇才前後の長身で、この国特有の前後につばの長いカーキ色の帽子と制服、長い皮靴、特に悲壮な表情でもありません。NZからシドニーに帰り、お世話になった兼松江商の方々とダルゲテイのタイラー氏と夕食をとり別れて九時頃シドニー空港に来ますと、一団の出征兵士が臨時便で出るところでしたが、ここでは日本の戦時中の見送りの風景と同様でした。恋人と離れがたく、泣き叫ぶ女の子、立って居られない女の子等様々です。昔の駅頭風景を思い出されたものです。このグループにポートダウインで追いつきましたが、古参兵はビールをやり、新兵さんはジョンポリとどこの国でも同様と感心しました。

童顔の兵士が、異境の地へ、明日をも知れぬ運命を思っただか、やけにガブ飲みする新兵さんもいた。平和とは良いと思う。平和に慣れ、従軍義務もなく平和な顔をしてる私を彼等は何のような印象を受けたか。強くしゃくりあげている女の子は、両側から抱えられや々と歩ける悲嘆ぶりでした。

シドニー市のもう一つの名所はシドニー橋です。日本人の設計によると言われますが、設計者名は知りませんが、美しい夕陽を背景に、その姿は名画です。

日本に在る時に、欧州の生活を聞き、そのベトつくような肌合いを想像して両国に渡ったのですが、案に相違して東洋的な肌合いで、公衆の前で、はばかりぬ男女の姿も、公園でも全く見ません。意外でした。構成人は東洋系のギリシヤ、パキスタンがいても、スコットランド出が圧倒的に多く、同国の中でもブライドの高い人種です。

NOX、MOTELの主人はカイゼル髪を揃え、正調英語で聞き易い人物でしたが、とても話好きの人物です。

もとスコットランドのヘレフォード協会の事務局長をした経歴の持主です。アングラスのこと。今評ばんのサセックス牛についてもとても詳しく大変参考になりました。

アメリカ、カナダのヘレ種のことになりますと、一層雄弁になり、あくまでもオリジンはスコットランドであると胸を張ります。ヘレ種は英国では石灰質豊富な黒い土壌の耕起用に使役されて、後機械化に伴い、肉専用に改良された、その歴史的経緯について誠に當時を偶はせる話振りなので、参考となりました。しかしこれが彼のいつもの手で能弁で釣銭を忘れさせようという魂膽でした。しかし愉快な人物でした。

ヘレフォード種は日本にアメリカ、カナダ、オーストラリアから導入されたのですが、日本に輸入されたものうち、最も体型、資質の優秀なのは有角種で、柏台牧場

のです。オーストラリアのNSW州とVIC州の体型は少し異なるが、最も好しい体型と資質はオーストラリアポールヘレ協会長ホーキンス氏の育成牛でありました。

今回は残念ながら日本に輸入出来なかつたのですが、もし輸入されたら改良に大いに貢献出来たことと思われま。

六〇頭の船出にはNSWの農務長官が、船上迄見送りに来てくれて、航海の安全と日本において大いに歓迎されること、日本のヘレ増産に儘してくれるよう祈つてくれたとのことで、その気取らない態度に親しみをもったそうです。途中三頭程輸送中に胃腸障害を発し、海中埋葬したとのことですが、その他事故も数頭の早産があつた位で、六月末現在十九頭の出産をみています。

粗飼料利用率の高いことは定評がありますが、登別の放牧地になれば、見事な豊富なグラマー振りを見せてくれます。隣に岩手県登録の日本短角種も一〇〇頭放牧してありますが、その肥脇性の相違には驚嘆の外ありません。三才、四才の年令構成ですが、凡そ四三〇キログラム、五五〇キログラムの範囲です。常時千越のNSWより水も豊富ですから、将来良い成績を示してくれるものと期待しております。

横浜の農林省検疫で小型ピロの血液寄生が三頭疑似と指摘を受け、現地道保健所の指導の下に一ヶ月の自衛防疫も、無事解除されたのですが、オーストラリアヘレ協会の事務局長も渡米の途中来日しその日に帰京ある慌しさでしたが、心配のため来日されたとのことで、その熱意にはうたれまし

た。

壮快感と清潔感の溢れた同国とニュージーランドの将来は誠に恐しい位の未開発の分野があり、更に無限の可能性をも秘めた大陸であります。幸い人口が一、三〇〇万人ぐらいいすから、開発しようにも労働力が不足ということでありましょう。

日本は人口が多く、せせこましい感じが強く致しますが、日本の農業始め諸産業の偉大な発展は、日本人の勤勉性、優秀性、企業合理化に集中あるその努力、推進力であの素朴な国と対比して再認識した次第であります。

外国において日本人と胸を張って答えられることに誠に誇りであり、幸福であります。帰国して、畜産王国の両国と日本を比較しました感慨は、次のとおりであります。

一 日本の土壌は、火山帯から生成された結果、有機質含有は極めて少なく、また無機質、ミネラルも少ない。(この例として、樽前、駒ヶ岳両火山性土地帯に、乳牛の腰麻痺が多発の傾向にあった。)

両国の土性は、NZにロトルワという温泉が一ヵ所あるのみで、AUSにはない。

AUSのNSWは無限の鉱物資源に恵れ無機物は豊富です。紫外線は強烈で、牧草は高蛋白質のものが多く、NZの気候は、日本よりも温暖で且雨量が多い。日本は両国に比較して自然条件で勝っているのは、雨量であります。AUSは干魃であり、多雨期は冬季と言われる七、八、九であり、

十、十一、十二は春期で干魃に入ります。二 日本の雨量は、牧草生産、草地拡大に

有利である。土壌中に有機物の還元を容易にし、且つ時間の短縮も行なえる。

日本酪農開拓者とも言われる町村敬貴氏の実践教訓に、土づくり、草づくり、牛つくりと地味な、しかし真理を説かれ、さらに氏の論説に乳牛のタイプブラスミートがある。今やカナダ、アメリカのタイプ全盛時にあり、どこ品の評会、共進会においても、皮膚の薄い、腹囲捲縮型の全盛期にあつて、かつての体幅、体積、腹囲膨大型は時代遅れと称しているけれども、搾乳終了時に骨皮型では残存物価も望めない。

酪農家が経営に於いて、最も期待する牛は、体積があり、泌乳量も多く、体高も大きく健康に生涯を終わるとき六〇〇キ哆〜八〇〇キ哆以上の体重であれば、十二万〜十六万円の副収入を残してくれるものが、最も好しいことではなからうか。筆者の尊敬する酪農家にT・Y氏がおられる。氏は高等登録牛は一頭もないが、純血牛のみで、七〇頭の搾乳を目標に、乳代一、四〇〇万、ホル雄肥畜販売収入一〇〇万、計一、五〇〇万の収入を上げんと努力されている。町村敬貴さんが数度訪れ、乳、肉収入を説かれたと聞く。今や着々とその実行されているが、開拓入殖以来の努力は並々のものでなかつたようである。

氏の目標は国際価格に対抗することと強く説かれる、その理論は冬の期間を短縮する、すなわち粗飼料を豊富に採草させることと、オール採草地はオール放牧地であり、反収四〇〇〇キ哆〜六〇〇〇キ哆の牧草は牛の採草と機械作業で収穫している。反当

りの施肥量は二千円ぐらいいで、将来は堆厩肥をヤウへ(液肥)として散布し省力化する。仔牛の育成は自働哺乳して省力化する等、合理化を検討されている。

結び

ほんの僅かな期間、AUSとNZに滞在して結論めいたことを書くことは誹りをうけることと存じますが、日本の酪農と両国の生産物価格の差を思うとき、如何にして日本の、特に酪農、肉牛のコストを下げるかを真剣に救済する時に、(その自然条件の余りの差違に敵しいものを感じるものですが)、両国とも最も真剣に価格政策により構造政策に重点をおいていたことでありました。更に両国とも建国以来畜産によつ

て発展したことから、畜産酪農に対する英知は素晴らしく、生体の機能、家畜の習性、心理は多頭数飼育の管理、生産、増殖に省力化、合理化として利用されている。一頭の牛、羊は経営の有機物であり、記録される。能力低下は無機化を意味し、淘汰される。このような思想での企業経営であり、各経営者の感覚で自由な型式の酪農業を行なっていることは、日本の画一的な型式に示唆を支えているとも思われた。

畜産王国に出張し、数々の教訓を得たので、その先進地の状況をスライドで紹介しましたが、意の如く十分に表現できなかった拙なさをお詫びし、報告を終わります。昭和四十四年八月

社内機構の改革と営業所の増設案内

日頃格別の御引立を賜わり厚く御礼申し上げます。関係皆様の御愛顧により弊社も逐年事業内容を拡充して参ることができましたことを心より感謝致しております。

さて、弊社では、日頃の皆様の御期待に御応え出来るような社内態勢の確立を図り種苗、飼料事業の充実を期し、通常社内の機構を一部改めましたので御知らせ致します。

一、営業部並に開発普及室の新設

本社内に営業部を新設し、営業活動の強化と御得意様へのサービスの充実向上を期しました。更に開発普及室を新設して、技術革新と厳密なる品質管理法に種苗、飼料の普及啓蒙の実を挙げることに致しました。

二、岡山・盛岡の両営業所を支店として

強化

従来御愛顧をいただいております両営業所を夫々支店に昇格、業務内容の強化を図り、従来の東京支店を総括支店と致しました。

三、北海道内に三営業所を新設

御得意様各位へ機微にふれたサービスの向上を期し、次の営業所を開設致しました。何卒よろしく御引廻しの程を御願いたします。

釧路営業所

釧路市鳥取南五丁目
雪印種苗釧路工場内

帯広営業所

(電話二二一六一四一)
帯広市東二条南十四丁目
三番地

北見営業所

(電話三二四四一九)
北見市北五条東四丁目十番地(電話三一四六〇三)